

わが社の歴史と主な製品

川合 誠治 (かわい せいじ) メトロ電気工業(株) 取締役社長

要約 創業からの長い歴史の中で震災や戦争を経験し、幾多の困難を克服してきた。創立後は白熱電球を中心に事業を続けてきたが、エジソンが発明した電球の基礎技術は今でも生きている。白熱電球は蛍光灯やHIDランプ、LEDなどが開発され、現在では極めて効率の悪い光源となったが、暖房用赤外線電球を始めハロゲンヒーターやカーボンヒーターは電球製造技術が基礎になり開発された熱源である。わが社は光源と熱源及びその応用商品という、シンプルでローテクな商品を製造し続けてきたが故に60年間継続できたのではないかと。このような視点でわが社の沿革と主な製品を紹介している。

1. はじめに

今や光源は蛍光灯、HIDランプなどの放電等をはじめLED、ELなど次々に高効率の光源が誕生し、発光効率の低い白熱電球はCO₂削減対策の一環とした政府の「脱白熱電球」宣言により、およそ130年間続いた一般照明用の地位を次第に追われつつある。

106年前の1903年にはライト兄弟が人類初の動力飛行に成功した。それから僅か66年後の1969年にはアポロ11号により月面着陸に成功した。また、コンピューターは20年ほどで飛躍的に進化し、企業、団体だけでなく家庭や個人をも繋ぐ世界的なインターネット社会を構築した。デジタル技術の進歩と共にカメラや携帯電話など数々の応用商品が登場し世の中は非常に便利になり進化を実感している。

それに比べ、エジソンが電球を発明したのは既に130年前のことである。勿論多くの改善により性能は飛躍的に進歩したが、材料、構造、製造方法など基本的な「技術」は現在でも脈々と生き続けている。つまり、エジソンが偉大で当初から「完成された技術」であったのか、もしくは電球業界の怠慢で進化しなかったのか判断の難しいところであるが、単純な発光原理、構造、材料の制約から自ずと限定されてしまう。業界人としてはエジソンの偉大さに敬意を捧げたい。

わが社は創業から96年、創立からでも今期第60期を迎えた。この間、関東大震災や第一次、第二次世界大戦など、大きな苦難を乗り越えてきた。その歴史を語る上で創業時代からの商品がほとんど残されていな

いのは非常に残念である。数少ない資料と先輩たちの貴重なお話を基にその歴史を振り返ると共に、創立当初から専ら白熱電球の製造事業が中心だったわが社が第60期を迎えられたことに感謝すると同時に誇りに思っている。そんな『メトロ』を少しでも理解していただければ幸いである。

2. わが社の沿革

2.1 電球工場の設立と商標

エジソンが日本の竹を使ったカーボンフィラメントで白熱電球を発明したのは1879年10月のことである。それから34年後の1913年(大正2年)5月米国人グリセム、ゲアリー、ビンダの三氏が横浜市に白熱電球製造会社を設立した。GEの系列で横浜電気工業株式会社である。輸出用電球類の製造が主であった。これがわが社のはじまりである。

商品に表示するマークを全国から募集し選定されたのが「METRO…メトロ」である。「METRO」とは元来ギリシャ語で「物の中心」「万物の核心」などの意味が生まれ、『メトロ』という響きがあたかもその電球が発する光輝のごとく、いかにもキビキビとして歯切れが良いところから採用されたものである。しかし、第一次大戦中『メトロ』は日本に相応しくないとのことで「中央」と言っていたようだ。

2.2 震災からの復興そして戦災

創業から10年後の1923年(大正12年)9月、関東大震災により工場は跡形もなく全壊し、肝をつぶした